

1 今回の審議会について

新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、委員出席での審議会が開催出来ず、在宅での審議となった。

2 審議の方法

各委員へ、1月16日までにメールまたはCDにて試聴番組の音声データを送付し、各委員は試聴後、その講評を1月23日までに返信した。

3 委員について

委員の総数 5人

在宅での審議を行った委員数 5人

- (1) 委員の氏名 小笠原 伸 (委員長)
君島 理恵 (副委員長)
青木 敬信
新井 啓泰
高橋 淳

4 審議の概要

2022年10月15日・22日に放送した番組「音楽のミナテラスとちぎ」について、試聴と意見交換をおこなった。

(番組説明)

2022年10月からスタートした番組。

「栃木県内の音楽活動を盛り上げるラジオプログラム」です。

栃木ゆかりの音楽家の方や、栃木県内で社会貢献活動をされている方を

ゲストに迎えて、その活動の様子や、プライベートな一面についても聞いていきます。

また、ゲストの方の演奏や、その方おすすめの音楽も流します。

皆さんの週末の朝を、元気に・明るく照らす番組です。

【審議番組についての意見】

委員：新井さんと高賀茂さんの息の合った落ち着いた語り口の番組で、土曜日朝の落ち着いた時間帯にぴったりの内容。特に新井さんは大学で教鞭をとっていることもあり、滑舌が素晴らしく、聞きやすく感じた。

冒頭、本日のゲストにあわせて自身のフルート体験を披露した高賀茂さんの話題は、つかみとして良かった。

ゲストの栗田智水さんの音楽に対する情熱が並々ならぬものと感じた。

最初からフランスの学校に行っていたのだと思い込んでいたが、宇都宮大学を卒業後、さらに3年間パリで研鑽を積んだとの話はとても興味深いものだった。

「この3年間でなければ演奏家にならなかった」とのことだが、その理由についてもう少し深掘りすれば、栗田さんの人間性がよりリスナーに伝わったかもしれない。

とちぎ未来大使や茂木町ふるさと大使を務め、その活動は「音楽で栃木を盛り上げていこう」という番組コンセプトにぴったりだと感じた。

この番組で栃木県ゆかりの音楽家がより多くの県民に知られ、親しまれることになると思う。音楽の地産地消という観点からも番組の成長をこれからも楽しみにしている。

栃木トヨタなどの提供だが、広告臭をほとんど感じさせず、上品な番組となっていると思う。ただ、次回予告のアナウンスがあった方がリスナー向けには良かったと思う。

高校生ボランティアグループ「つぼみ」の内容も耳をそばだてた。

当然大人も関わっているだろうが、高校生が自主的に運営する「こども食堂」は非常に珍しいのではないかと驚いた。こうしたグループの紹介は、リスナーに興味を持ってもらえ、聴取率の向上につながると思う。

委員：休日の朝にふさわしい、爽やかで快適な番組という印象。

新井さんの語り口が軽快で、大学の先生とは思えないのが非常によい。

その上で音楽家としての慈愛に満ちたコメントがコンクールに参加する若い生徒らの希望になるだろう。栃木県内の音楽イベントの情報が番組を介して自然にリスナーに伝えられてゆくのは好ましく、クラシックに限らず地域の音楽好きが集う場になっているのを感じる。

高賀茂さんとのコンビがいい関係で、他の機会でのコラボレーションを期待する。

ゲストの栗田さんも話しなれていて聴きやすい。音楽分野の方はマイクの前で話すということがスキルの中にあるのか。栃木の出身の音楽家の経験がこうやって地元メディアで語られ、県内の音楽関係者や音楽を学ぶ若者にも共有されてゆくというのはひとつの理想形であろう。栗田さんは話がわかりやすく声もいいので、FM 栃木として様々な機会での出演機会を検討してもいいのではないか。

栗田さんの茂木町での活動も魅力的。文化活動の関係者のみならず行政や地域が全体で取り組んでいる事業の中心にいるのが伝わってくるし何よりチケットが完売という情報も成功へ向かっているという意味で大切なことである。

ミナテラスとちぎインフォメーション、栃木県内のクラシック音楽シーンがこれを聞くとわかるというのは大きい。インターネット時代となってもやはり放送局が地域の情報を編集して発信してゆくことで多くの方々に理解を得て行けるという。

やり方次第では番組を広げて行ける可能性を感じる。

社会貢献活動のコーナーについては、残念ながら番組としての軸がブレているように聞こえる。音楽番組の中に入れ込むのはゲストにも制作側にもお互いにとってハッピーではないように感じた。内容としては地域的にも良質でかつ貴重なことであるのは確かで、何らかの適切な番組の再配置や構成を考えたほうがいいのではないか。

社会貢献を行うゲストのためにも、別途ボランティアの番組やコーナーを検討して欲しい。

委員：新井さんの声や話し方、とても未経験の方とは思えなかった。

逸材発掘になったのではないかな。明るい声質と穏やかな話し方が好感が持てた。

クラシック音楽の番組が今まで少なかったため、クラシック音楽好きには嬉しいスタートだった。クラシック番組は専門的で堅苦しくなりがち。トークの時間が若干長いという印象もあるが、楽しいトークを中心に音楽家の方にスポットをあてたこういう番組は大歓迎。

オープニングやトークの BGM が華やかで良いと思う。ボリュームは若干大きいかもしれない。ゲスト栗田さんのトークも滑らかで、安心感があった。栗田さんはトークも上手なので、今後パーソナリティとして活躍する機会もあるかもしれない。今後の展開を期待する。

委員：新井さんの爽やかなオープニングに感動した。学生音楽コンクールの話のなかで、自身のみずみずしい実体験と「いつも通りのパフォーマンスを」という励ましの言葉は、「頑張っ！」といった通り一遍の応援の言葉とは違う、新井先生ならではの共感のコメントでグッときた。1日が始まる朝の時間にピッタリのすばらしいオープニングだった。

ゲストの栗田さんは、声が良くて話も上手。

インタビュアーとしては、任せておける感じで、ある意味、楽な感じでもあるが、その分ドンドン行ってしまうので、放送で聞いている側とするともう少し区切ってインデックスを細かくして貰う方が内容が伝わったのではと感じた。

おもしろい話しがたくさんありそうな方なので、少し平坦になってしまった印象。

少し残念な気がした。

終盤のお知らせの中で、「2023 年ミュージックフェスティバル IN 宇都宮」の案内があった。誰でも参加出来てホールコンサートの体験が出来る、おまけにその道の先生方からの今後の練習についてもコメントいただける、なんとも凄い催しがあるのだと初めて知った。

こうしたイベントの案内こそ、この番組の大きな役割だと感じた。

「つぼみ」の案内も良かった。この番組らしい情報提供で、地域で活躍している団体、人たちにとても有り難いことだと思った。単なる宣伝ではない、放送局としての取り組み姿勢が伝わる情報提供になっていると感じた。

委員：この番組の良い点は、栃木の音楽家をクローズアップできるということ。

それぞれの方が各地域で活躍していることもあり、确实・直接にそのアーティストの地域のファンや県関係の主要なコミュニティに訴求力があると思う。

(以上)

(1) その他
なし

(3) 次回開催日程について
委員出席の上、3月6日(月)に審査会を予定しているが、
新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、日程や審議方法を再度検討することとする。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日
(1) 放送 1月29日(日)午後 7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
(2) 書面 本社事務所に備え置き
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項
なし